

新しい診断基準を

原田熊大 水俣病患者発見に 講師報告



原田正純熊大講師

での診断基準では判定出来ないケースがある。今後は、新患者を発見するため、新しい基準から住民の健康診断をせねばならない」と指摘した。

報告によると、患者は十年間たつても知能障害など精神症状はほとんどよくなっておらず、筋肉萎縮や病的反射など最初になかった症状が高率に出ている。

また、他の病氣と診断された者

年が、一年後に実は水俣病であることがわかり、八年間にわたる治療で、大型自動車の免許をとるまでに回復したが、その後両足のまひ、知覚異常など新しい症状が出ている―などの例をあげて、水俣病はこれまでいわれてきた病状より、もっと複雑であり、いまの診断基準では他の病氣と間違える恐れがあると警告した。

さらに水俣地区の水銀汚染は想

像以上に深刻であり、患者の家族三百八十四人から百人を選び出し、調べたところ、無症状のものは、わずか十人しかおらず、あとは知覚異常、運動障害などなんらかの神経症状に悩んでいる。

日本精神神経学会は最終日の十六日、東京・九段会館で「水俣病のその後」についてシンポジウムを開いたが、熊大精神神経科原田正純講師は、十年間患者の経過を観察した結果を報告し「水俣病の症状は非常に複雑であり、これま